

早稲田大学アジア太平洋研究科・松岡研究室

2016 年夏合宿

報告書(第 5 号)



鴨川シーワールドにて(2016 年 7 月 17 日)

早稲田大学国際学術院・大学院アジア太平洋研究科

松岡研究室

幹事長 龍原 梢(修士2年)

2016 年 9 月 2 日

1. 合宿日程

2016 年 7 月 16 日（土）～2016 年 7 月 17 日（日）

2. 合宿先

早稲田大学鴨川セミナーハウス

所在地：〒299-2862 千葉県鴨川市太海 1619-1

電話：0470-99-0845 FAX：0470-99-0846

3. 目的

- ・修士論文発表会（論文提出予定の修士課程2名）
- ・ゼミ生間の交流促進
- ・全員による研究紹介

4. スケジュール

2016 年 7 月 16 日（土）

時間	内容
9:50	東京駅八重洲口に集合
12:30	太海駅に到着,ランチ
14:30	鴨川セミナーハウスに到着
14:30-16:40	ジョイントセミナー 修論発表と研究紹介
18:00	夕食
20:00	親睦会

2016 年 7 月 17 日（日）

時間	内容
7:30-8:30	朝食
10:30-13:30	鴨川シーワールド
13:30	解散

5. 参加者

修士 5 名、博士 4 名、引率・松岡教授の計 10 名が参加した。

表 1 参加者一覧

修士1年	Li Chuping
修士1年	Zhang Yan
修士1年	フランシスコ ルイシ
修士2年	龍原 梢
修士2年	Konin Koffi
博士課程	李 洸昊
博士課程	Nguyen Ngoc Quynh
博士課程	Qin Ziyi
博士課程	胡 筵

6. 一人当たり費用

表 2 費用

項目	金額
宿泊費	1,620円
ランチ	1,200円
夕食	1,296円
朝食	648円
高速バス+鴨川シーワールド	5,500円
その他	1,000円
合計	11,264円

7. ゼミナール概要

合宿初日に、セミナールームにて修士課程および博士課程のジョイントゼミナールが行われた。修士課程修了予定学生の 2 名による修士論文の研究報告、またその他の学生の各自の研究進捗状況の報告が行われた。

7.1 修論報告

1. Konin Koffi

“Evaluation of Socio-economic Impacts of Climate Change on Crop Production
-Case of Climate-Smart Cocoa Production in Cote d’Ivoire-”

2. Kozue Tatsuhara

“Institutional change: Corporate environmentalism in Japanese nuclear power sector
-Analyzing the causes of the Fukushima Nuclear Accident-”

7.2 研究発表

現在の各自の研究進捗状況の報告が行われ、学生同士の研究テーマや研究内容を知ることができた。必要に応じて、お互いの情報共有や議論などができ、研究進展においても役に立った良い機会となった。

(1) Zhang Yan

「砂漠化問題における中国企業の CSR 取り組みについて一億利集団の砂漠化取り組みからの考察」

(2) Li Chuping

“Higher Education as a tool for climate change response- Evaluate the Climate Change Education in Wuhan-”

(3) 李洸昊

「スリランカにおける廃棄物行政の効率性評価—スリランカ中央州の市町村の事例分析」

(4) 胡筋

「日本のまちづくりNPOの特性と活動の規定要因に関する研究」

(5) 覃子懿

「ソーシャル・キャピタルの形成と発展における影響要因」

(6) Nguyen Ngoc Quynh

“Social acceptance of climate change technology innovation”



8. おわりに

鴨川セミナーハウスは、今回が 3 回目の利用となる。前回と同様、快適な合宿を送ることができ、ここにて鴨川セミナーハウスの職員の皆様にお礼を申し上げる。大半が留学生である松岡ゼミの学生には、日本の大学の合宿文化の体験および東京以外の地域にも行けるいい機会となった。

修了を控えている修士学生 2 名およびゼミ生の研究報告は、様々な研究テーマや内容、方法論などを知る機会となり、ゼミ生にとっては有益だったと考えられる。特に、修了を控えている修士学生 2 名においては、最後の修士論文の学位審査のディフェンス前に、質疑応答の機会、コメント取得が得られる貴重な機会となったと考えられる。次回の合宿においても、今回のようにゼミの学生同士の議論の場を設け、さらに活発な議論ができるように計画することは重要である。最後に、ゼミをマネジメントに協力していただいたゼミ生の皆さんにお礼を申し上げたい。

記録：龍原 梢（2016 年春学期・M ゼミ幹事、ゼミ幹事長）、
グエン ゴク クイン（2016 年春学期・D ゼミ幹事）